

# 大東文化大学 東洋研究所所報

2022.1 No.76

## 目次

巻頭言 「栗原メモ」(昭和58年)について	2022年度 夏休み公開講座……………4
所長 岡崎 邦彦……………1	2021年度 東洋研究所刊行物……………4
2021年度 夏休み&秋の公開講座……………2~3	

## 「栗原メモ」(昭和58年)について

大東文化大学 東洋研究所 所長 岡崎 邦彦

わたしが研究所において助手から講師となった頃、当時、研究所機関誌『東洋研究』の編集長をされていた中国文学科教授栗原圭介先生より、「研究所所員の心構え」として、研究員へ渡されたメモがある。常々、若手研究員の研究姿勢について、厳しい指摘をされていたが、それをメモにして渡されたのであった。38年前のものであるが、見ていただきたい。

### 研究員メモ(昭和58年10月18日)

研究というものは、自由な雰囲気やらなければ研究の独自性というものは出てこない。自由な雰囲気のないところには研究の成果は上がらない。研究は自由な雰囲気の中に自由な発想が湧いてくるものである。研究にとって有害なものは、形式主義と派閥主義であるから、これは排除する。研究は本来自由から生まれたものであるから、権威主義の入り込む余地はないはずである。

研究所という名のつく機関では、低次元のことはやるべきではない。

研究実績のない人は、研究に口出しすべきでない。それは害であって一利もないからである。大事なことは、やたら煩瑣な形式主義を取らないことである。

優れた素質のある研究者を選んで研究の場を与えるようにすべきである。この事は、まともな論文を書くという至上命令に答えなくてはならないからである。

研究所はよそにないものを作る。これが世界のトップに立てることになる。研究は筋の新しいテーマを探すこと。過去の優れた業績から見て、常に時代の先端に行くテーマと研究方法を求めること。そのためには、研究所として研究とは何か。論文はどう在るべきか、どう書くべきかについて、年

に何回か討論することも 考えてよいのではないか。

共同研究で大事なことは、共同研究の遂行状況を常に把握していることである。研究費と時間の使い方について管理する。研究には本来個人とか共同とかは無い筈である。共同で取り組まなければできないものは共同でやるしかない。

共同研究計画の継続期間は、1年、2年、3年とし、3年を超えるものは改めて審査にかけて、認めるか否かを定める。最高3年ということは3年やったらその成果を論文にして公表する。無理してやった共同研究にろくなものはない。最小限必要なものを共同研究でやらせる。

研究員の自覚として、研究費と時間の無駄遣いのない研究員にならなければならない。能力のないものに研究費や時間を与えてはならない。

良い論文は論文雑誌に要約して英文にして海外に送るという努力を怠ってはならない。海外との論文の交換を行う。つとめて優れた論文をたくさん書いて広く海外にばらまくようにする。

若い研究者は、年長の実績のある研究者を早く追い越すような実績を獲得すべきである。研究者の宿命として、寸時も安眠は許されない。

審査方法；審査委員会を作っておくとよい。人数は5人の奇数が適当と思う。5人に満たない時は学外に求める。

審査委員の資格；肩書で決めてはならない(例えば、教授とか学位があるとか)。研究実績のあるものに限る。実績主義で行くのが良い。論文実績は、ちゃんとした学術雑誌でレフリーのつく論文雑誌で発表した論文ということになる。任期は年限つきでやる。

(おかざきくにひこ 東洋研究所 所長 専任研究員・教授)

## 2021年度 夏休み公開講座「明治後半期における日本美術界と岡倉天心」

2021年度 東洋研究所 夏休み公開講座は、大東文化大学「平成三十年度私立大学研究ブランディング事業」の一部として、「明治後半期における日本美術界と岡倉天心」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

### ◇第1回 2021年7月17日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「日本美術史・公募展の誕生と岡倉天心」

講師：岡倉 登志(東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学名誉教授)

本講演では20代後半に東京美術学校校長や皇室博物館理事、古社寺保存等の美術行政に従事した岡倉天心(本名：覚三 1813-63)が晩年までに力を注いだものが実は美術史であった事が強調されている。

その成果として英文の著書“The Ideals of the East”(『東洋の理想—日本美術を中心に—』1903)やシカゴ万博、パリ万博といった仕事が挙げられたが『東洋の理想』(14・明治時代)の冒頭部分の一節は弟子である画家・横山大観(1868-1958)作の《双龍争珠》(1905)のモチーフを暗示させる等、天心の思想が絵画化される事によって美術史そのものが形成されるという理想的なあり方が語られた。



### ◇第2回 2021年7月24日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「明治期における「日本画」の創造—横山大観の画業を中心に」

講師：佐藤 志乃(東洋研究所 兼任研究員)



本講演では岡倉天心と横山大観が師弟を超える影響関係並びに協力関係を築く事で画壇を牽引し「日本画」の創出・成立に尽力した過程が詳しく述べられた。両者の事跡を中心に追究した内容であったが大観の代表的な作品を紹介しながら、やはり天心の弟子である下村観山や菱田春草らの絵画との比較も交えて如何に伝統的な要素を遺し革命的な試みを行ったのかが論じられた。そして「日本画」という概念が、どの様に定着したかという点からも興味深い講演であった。

### ◇第3回 2021年7月31日(土) 10:30～12:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「明治以降における西洋受容—洋画を中心に」

講師：田辺 清(東洋研究所 兼任研究員・大東文化大学国際関係学部国際文化学科教授)

本講演では1889年6月に東京で発足した「明治美術会」の時代から1907年を契機に成立していった「白樺派」における洋画界を中心とした西洋受容について、これまでの二回の講演で触れられた天心や大観との関わりにも言及しながら論じられた。古典主義絵画の成立に携わったラファエッロの素描を丹念に模写した黒田清輝(1828-1894)やデューラーをはじめとする北方のルネサンスの影響を受けた岸田劉生(1891-1929)更にレオナルド・ダ・ヴィンチの研究に従事した児島喜久雄らを探り上げ日本における西洋美術史発展も跡付けられている。



## 2021年度 秋季公開講座「アジアの民族と文化」

2021年度 東洋研究所 秋季公開講座は、伝統の「アジアの民族と文化」を統一テーマに下記の通り開催された。各講座の概要は以下のとおりである。

### ◇第1回 2021年11月4日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「中国の文字占い」

講師：田中 良明（東洋研究所 専任研究員・准教授）



字形に注目して漢字を分解・合体させ、別の文字と意味を導き出す離合析字という手法を用いた例を中心に、災異説や夢占い、諧謔や灯謎など、他の思想や文化と密接に結びつきながらも、宋の謝石の登場や、明の心易の影響によって独自の展開を見せた文字占いの歴史について紹介し、文字占いと同じ手法によって18世紀に起きた雍正の文字獄に触れるとともに、2021年初めに中国圏で話題となっていた「習」字と「翠」字の関係についても解説した。

### ◇第2回 2021年11月11日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「アラブの船乗りたちの文化—インド洋を往還した木造帆走船を中心として—」

講師：栗山 保之（東洋研究所 専任研究員・教授）

本講座では、前近代のインド洋を舞台として営まれていた、東海上貿易や人の移動・移住活動などにおいて重要な役割を担っていた木造帆走船をとりあげました。近代以前の木造帆走船がいかなる構造をしていたのか、またどのようにして航海していたのかといった問題を、驚異譚や地理書などのアラビア語史料に散見する船関連の記事のほかに、現代もアラビア海やペルシア湾を航海している木造帆走船の写真などを用いて、解説いたしました。



### ◇第3回 2021年11月18日(木) 13:30～15:00 大東文化会館3階 K-0302 研修室

テーマ：「中国共産党100年史—党内の権力闘争」

講師：岡崎 邦彦（東洋研究所 所長 専任研究員・教授）



1921年中国共産党創立から文化大革命に至るまでの中共の路線闘争、権力闘争について講演した。そこでは、中共創立者陳独秀の評価、李立三路線、王明の教条主義批判などを取り上げ、さらに建国後は高崗・饒漱石事件、急速な農業集団化を「冒進」として批判した周恩来、大躍進を批判した彭徳懐、そして劉少奇打倒の文化大革命など、それらの多くが毛沢東の権力に絡むものであったことを指摘した。さらに林彪事件、四人組逮捕、華国鋒の失脚から改革開放への時代の転換を権力闘争から捉えなおしてみたのである。

## 2022 年度 夏休み公開講座

東洋研究所では、2022 年度も秋の公開講座のほかに夏休み公開講座を予定しております。定員については、コロナ禍の状況次第で変動することを想定し、現時点では未定とします。2021 年度は 15 名でした。受講料は無料です。

日 程 (予定)	講 師	テ ー マ
2022 年 7 月中旬の土曜日～ 8 月上旬の土曜日 10 時 30 分～ 12 時 00 分 上記のいずれかの日に、3 名 の講師により、開講します。	大東文化大学 名誉教授 東洋研究所 兼任研究員 原 隆一	トルコ・中央アジアを歩く 一米の道調査から
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 南里 浩子	イラン革命をフィールドワー クする
	大東文化大学 東洋研究所 兼任研究員 福岡大学准教授 林 裕	アフガニスタン調査から 50 年、 変わりゆく今

■会 場：大東文化会館 研修室（詳細は未定）

■交 通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩 3 分

◆詳細な内容（日程、会場、定員）が決定しましたら、追って大学ホームページ等に掲載いたします。

## 2021 年度 東洋研究所刊行物

- ・ 東洋研究 第 220 号 (2021 年 7 月 25 日発行) 第 221 号 (2021 年 11 月 25 日発行)
- 第 222 号 (2021 年 12 月 25 日発行) 第 223 号 (2022 年 1 月 25 日発行予定)
- ・ 『藝文類聚 (巻五十) 訓讀付索引』 (東洋研究所研究班 2022 年 2 月発行予定)
- ・ 『中国古代史研究—天文・暦学を中心として—』 (東洋研究所研究班 2022 年 2 月発行予定)
- ・ 『大野盛雄 フィールドワークの軌跡Ⅲ』 (東洋研究所研究班 2022 年 2 月発行予定)
- ・ 『虞初新志 訳注 巻一～巻三』 (東洋研究所研究班 2022 年 2 月発行予定)

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

### 刊行図書取扱店

■(有)池上書店

〒 175-8571 板橋区高島平 1-9-1 大東文化大学 2 号館 B1  
TEL : 03-3932-7567 FAX : 03-3932-7544  
E-mail : ike-book@smail.plala.or.jp

■汲古書院

〒 102-0072 千代田区飯田橋 2-5-4  
TEL : 03-3265-9764 FAX : 03-3222-1845  
E-mail : kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部(株)進明堂書店

〒 355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560  
TEL : 0493-34-4430 FAX : 0493-34-5622  
E-mail : info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■東方書店業務センター

〒 175-0082 板橋区高島平 1-10-2  
TEL : 03-3937-0300 FAX : 03-3937-0955  
E-mail : tokyo@toho-shoten.co.jp

### 大東文化大学 東洋研究所 所報 No.76

2022 年 1 月 25 日発行

印刷：(株) 東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒 175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail : tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>